

# 早稲田ラグビー蹴球部が勝つために行っている儀礼と伝統 Courtesy and Tradition for victory in Waseda Rugby Club

1K03B046-5 笠原 歩

指導教員 主査 寒川恒夫 先生 副査 中竹竜二 先生

## 序章

私はラグビー蹴球部に入部し、いままで活動してきた「早稲田は絶対に負けてはならない」と教えられ、自分自身「早稲田に負けはない、絶対勝たなくてはならない」と考えている。早稲田は、たとえ勝てない時代でも、常に、勝つために、部員が練習に励み続けてきた。負けることは、そのことに対する裏切りであるとも教えられた。また、早稲田は勝つための集団であり、勝つことを目標にしている。だから、絶対に負けてはならないのだと思う。

勝つこと、大学日本一になること = 『荒ぶる』

勝利の先に、栄光の歌があり、勝利の裏に早稲田の哲学がある。そして、勝利のために、たくさんの伝統が存在する。

長い歴史の中で早稲田ラグビー蹴球部が勝利にこだわり、そして勝利を迫るために、たくさんの儀礼と伝統がうまれてきた。この論文は、「早稲田が勝つために行っている儀礼と伝統」を、まとめたものである。

## 1 目的

早稲田ラグビー蹴球部で行われている「勝つために行われている儀礼」、「勝つために伝統的に行われていること」について。

①「なぜ、そのような事が行われているのか。」「そして、それらの歴史はいつからなのか。」ということについて、探求すること。

②早稲田ラグビー蹴球部で行われている「勝つために行っている儀礼と伝統」を集め、まとめること。

## 2 方法

フィールドワーク。文献や、映像資料を使用し、調べた。

## 3 先行研究について

今まで、文献の中などで、触れられていることはあるが、紹介にとどまっているため、この卒論は、「早稲田が勝つために行っている儀礼や伝統」をまとめたものとしては、初めてである。

第1章 早稲田の魂について。早稲田でラグビーをするものにとっての憧れ、それは、「赤黒ジャージ」と『荒ぶる』である。卒業までに、一度は赤黒ジャージを着たいという思いを胸に、練習に取り組み、最終学年の時には、『荒ぶる』を歌って卒業したいと思っている。第1章は、赤黒ジ

ャージ、勝利の歌『荒ぶる』、部歌『北風』についてまとめている。

第2章 早稲田ラグビー蹴球部では、勝つことでしか自分たちを肯定することはできないという哲学がある。早稲田にとって、勝つことがすべてである。私たちの目標は「大学日本一」になり、そして、『荒ぶる』を歌うことである。

『荒ぶる』のためには、負けは許されない。そのため、早稲田は、創部以来、とことん勝利にこだわってきた。その中で、勝利を呼び込むために試合前には必ず行われていることがある。それが、勝つために行われる「試合前儀式」である。第2章は試合前儀式についてまとめた。

第3章 伝統の一戦である早慶戦と早明戦。伝統の一戦である早慶戦、早明戦には、多くのファンがつめかけ、会場を埋め尽くす。両者、死力を尽くして戦い、下馬評どおりいかない、「何が起こるか分からない。」というのも、早慶戦、早明戦の特長である。

第4章 早稲田の伝統。夏合宿で行なわれている伝統やゲバ、しばりというものは早稲田独自の伝統である。勝利を追求するためにこれらのことが行なわれている。

第5章 1年生の仕事や新人練についてまとめている。

第6章 ジンクスやタブーについて。これらも、すべて勝つことへのこだわりの中で生まれてきたのである。

## 結章

早稲田は「勝利」が、そして、赤黒ジャージがすべてであった。勝利に対する執念と勝利の哲学の中から早稲田ラグビー蹴球部の文化が生まれてきたのである。

私は、4年生の最後まであきらめない姿勢をみてきて、早稲田の強さを感じてきた。『荒ぶる』でしか自分の四年間を肯定することができないのである。早稲田のラグビーがいつの時代でも、常に狂ってきた所以は『荒ぶる』にあるのだ。このことが、勝つために行なっているすべてのことに結びついている。勝つために、伝統が生まれ、そして、継承されてきたのである。

早稲田の伝統は、『荒ぶる』と「赤黒ジャージ」の存在から、勝ちにこだわる中で生まれてきたものであった。